とりいまついせきつうしん
鳥居松遺跡通信　№2

（財）浜松市文化振興財団・浜松市文化財担当課　2008 年 2 月 10 日

貴重な発見が続いています。

鳥居松遺跡の発掘調査は、2 月に入り、平安時代から奈良時代（1200 年前～1250 年前）の地層の精査に入りました。伊場遺跡からつながる小川の跡からは、古代の生活がうかがえる貴重な発見が相次いでいます。

古代には、罪やケガレを清めるために、様ざまな儀式をしていました。今回調査している小川の跡からは、木で作られた儀礼用具がたくさん見つかります。とくに、人の形をした木札は、儀式の具体的な様子をうかがううえで重要です。

■　出土した儀式の道具類（奈良時代末～平安時代初め）

木の札を使って神聖な場所であることを示し、人の形をした木札に、罪やケガレを乗り移らせて川に流す儀式をしていました。

出土品の一部を紹介します。

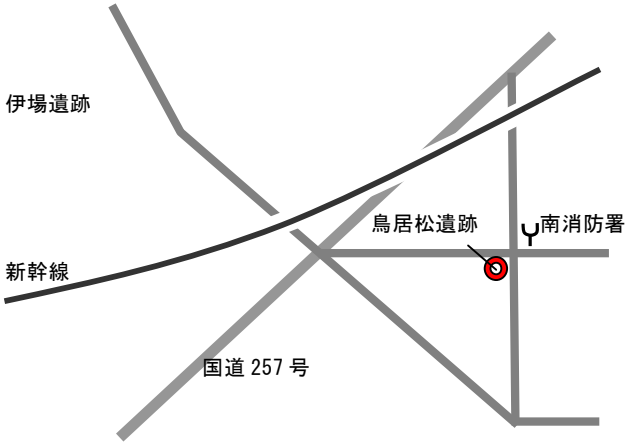
■　字が書かれた器
（須恵器　すえき）
「稲万呂（いなまろ）」という古代の有力者の名前が書かれています。

■　古代の食事の跡
（貝塚の貝）

奈良時代末から平安時代初め頃に食べられていた貝類が、小川の中に捨てられていました。

発掘調査現場は見学できます。

鳥居松遺跡の発掘調査は、平日の晴天時、午前 8 時 30 分から午後 4 時 30 分まで実施しています。作業時間内でしたら、発掘現場は見学できます。お気軽に担当までお問い合わせください。なお、作業時間以外の現場立入は、危険ですので、ご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。



鳥居松遺跡発掘調査事務所　　TEL　053-442-0087